

## 環境との調和をめざした道路づくり

国土交通省 東北地方整備局 秋田河川国道事務所

この3月に開通した国道7号線秋田南バイパスでは、環境との調和を目指したさまざまな試みがなされている。

まず目に飛び込んでくる大きな発電用風車があり、これは立地的に風が強いことを利用して発電し、冬期間のロードヒーティング経費に充てるという、まさに理にかなったものである。橋部分は普通道路よりも凍結しやすく、カーブ区間ということから安全面でも考慮されている。ほかにもトンネル内の照明に使用しており、設置費用が高くなることを考慮してもプラス面が多い。この11月末からロードヒーティングは順調に稼働している。

バイパスの臨海大橋建設付近には、市街地では珍しい大規模なサギの集団営巣地があり、その生態調査に基づいて、抱卵時期を避けた工事やサギ移動防止ネット設置などの対応策が行われ、橋が完成・供用された後もサギが順調に営巣していることから、極めてうまく共存できた事例といえる。

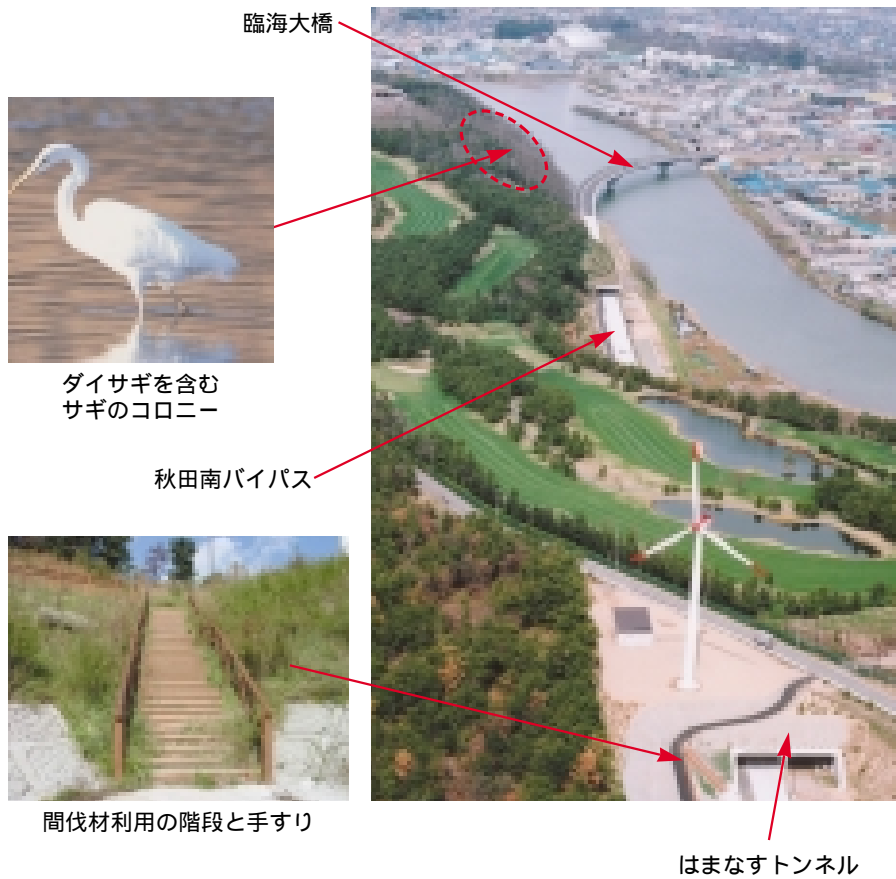
これまで本荘方面から秋田市内に通じる道路は渋滞のメッカであったが、このバイパスの完成により市街地全体の混雑が大幅に改善された。渋滞損失額の削減効果は年間で約50億円ともいわれ、CO<sub>2</sub>排出量では年間約440tの削減になると試算されている。渋滞によるイライラが減ることも運転する者

としてはうれしいことだ。

また、道路に隣接して中学・高校があるため、安全な通学のためにトンネル上部にスロープと手すりを設置しており、

これには間伐材が活用されている。

地球環境との調和を目指した道路づくりは今後ますます求められるものであり、国土交通省の取組に期待がかかる。



### 入会について

### あなたも参加しませんか

私たち自身のため、未来の子供たちのため、秋田の環境をよりよくしていくというネットワークづくりの団体です。ホームページやフォーラム通信を通じて、様々な立場での環境に優しい行動を紹介し広く連携を呼びかけます。入会資格は「秋田の環境を大切に思っている」ことだけで、個人、企業、団体などどなたでも入会できます。入会申し込みはホームページの申し込みサイト、あるいはFAXでご住所・お名前をご連絡ください。会費納入について 秋田銀行 県庁支店 普通 560425 北都銀行 山王支店 普通 6099633 郵便振替口座 02280-7-76146 いずれも環境あきた県民フォーラム宛です。

年会費 フォーラムの活動を支え合うため年会費の負担をお願いしています

区分	会費	該当するもの
企業・企業関係団体	1口:1万円 年1口以上	企業・業界団体など
個人・民間団体	1口:1,000円 年1口以上	消費者団体・地域団体・町内団体・ボランティア団体など

### 環境あきた県民フォーラム事務局

〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2 遊学舎（秋田県ゆとり生活創造センター）内  
FAX 018-829-5803 TEL 090-6781-8040  
Eメール mail@eco-akita.org ホームページ http://www.eco-akita.org

事務局から

もうすぐお正月。何て時間のたつのが早いんでしょう…これも年のせいでしょうか。取材のたびに皆さんの頑張りに頭が下がります。こういった活動に関心のない方々に知ってもらわなければならないことだろうと思っています。できるだけ親しみやすい紙面、役に立つホームページをと心がけていますが、ご意見をどうぞ事務局までお寄せください。

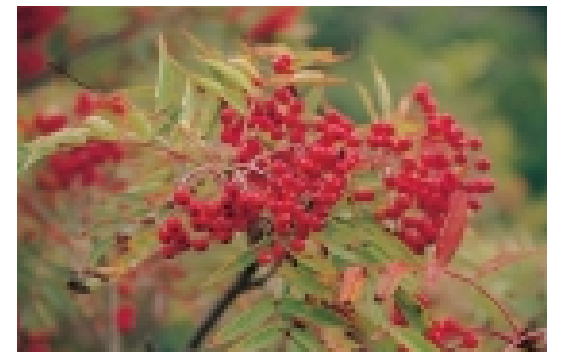
# 環境あきた

AKITA

2003  
冬号

## 県民フォーラム 通信

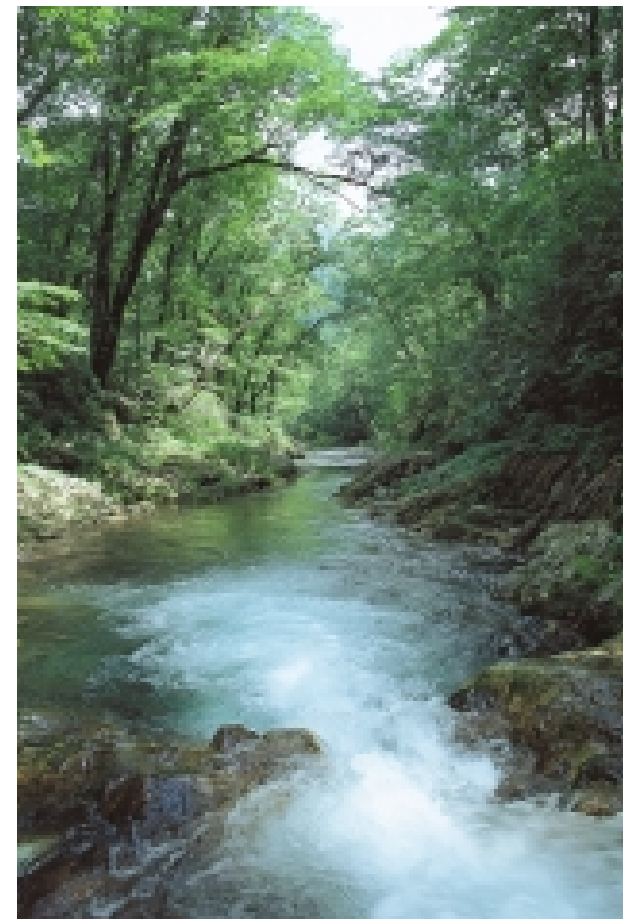
発行/環境あきた県民フォーラム事務局  
〒010-1403  
秋田市上北手荒巻字堺切24-2 遊学舎 秋田県ゆとり生活創造センター 内  
TEL090-6781-8040 FAX018-829-5803  
E-mail:mail@eco-akita.org ホームページ:http://www.eco-akita.org



田苗代湿原のナナカマド



岳岱の400年ブナ



粕毛川

### 白神の自然

### 目次

- 報告 NPO法人化へGO! ... 2
- 報告 環境へ配慮する事業所を認定 ... 3
- 活動紹介 ... 4



環境あきた県民フォーラム通信は再生紙を使用して作られています。

## 馬場目川に生活排水を流さないで

### 八郎湖の水を考える集いで地元児童が調査結果発表

第20回八郎湖の水を考える集いが、11月17日（月）五城目町民センターを会場に八郎湖水質対策連絡協議会の主催で開催された。

集いでは、初めに水質保全や美化活動をテーマにしたポスターと標語のコンクールの入賞者の表彰を行った。

次に、五城目町の馬場目小学校と大川小学校の児童たちが学校周辺を流れる馬場目川の水質と水生生物の関係についての調査結果を発表した。

児童たちは「上流、中流、下流と調査した結果、上流では水も透明で、きれいな水質に生息する生物が確認できた。しかし、中流からは汚れが目立ち、少しきつい水や、きつい水に生息する生物も見られた。川の汚れの主な原因は生活排水であり、大切な川をきれいなままにするためには生活排水を流さないように、みんなが気をつけることが大事です。」という発表をした。未来を担う児童たちの意見は、しっかりと受け止めたものである。

また、「八郎瀧をめぐる神社」をテ

マに五城目町文化財保護審議会会長の小野一二氏より、神社の由来と地域の文化や歴史の関わりについての講演があった。

「水生生物による  
馬場目川の水質調査について」  
五城目町立馬場目小学校  
<http://www.akita-c.ed.jp/sch11673/>  
「馬場目川と岩見川の  
水生生物の調査」  
五城目町立大川小学校

<http://www.akita-c.ed.jp/sch11677/>



優秀賞の皆さん（敬称略）  
『ポスターの部』  
澤田石里菜（内川小6年）  
伊藤 裕太（鶴木小6年）  
茂林 友紀（八竜中1年）



優秀賞のポスター

『標語の部』  
「汚さない 汚したくない  
みんなの宝 八郎湖」  
中野 沙耶（鶴木小6年）

「捨てないで あき缶  
生ゴミ あなたの心」  
高桑 千紘（天王南中2年）

「清流の元は <sup>みなもと</sup> 一人一人の 心がけ」  
鈴木 沙彩（天王南中1年）



児童による発表風景



児童による研究発表

## お待ちしております

皆様の活動をもとにフォーラム通信やホームページを作成しています。イベントや、活動の内容などの情報を首を長くしております。

会員の皆様の活動など、写真つきでお寄せいただいたときは、ホームページ上の活動紹介のコーナーで画像を入れて掲載させていただきます。

詳しいことは、どうぞお気軽に事務局までお問い合わせください。（事務局：高村）



## 自然にやさしい僕らの活動

### ボーイスカウト秋田33団

ボーイスカウト日本連盟はWWF世界自然保護基金と連携して環境保護活動を積極的に取り入れた活動をしている。毎年「スカウトの日」を設定して、全国約20万人のスカウトが一斉にクリーンアップ活動を行っている。

9月15日、秋田第33団はこれを「カントリー大作戦」と呼び、保戸野のスカウトハウスを中心にカブスカウトが力を合わせてゴミ拾いをした。



スカウトハウス前で

WWF世界自然保護基金との連携から、彼らのユニフォームには世界スカウト記章とパンダを重ねた「世界環境保全記章」が採用されていて、とても可愛い。

普段は「行動によって学ぶ」という教育原理に基づいたプログラムの活動



カントリー大作戦

や、森吉山ろく周辺の「ぶな植林」というビッグプロジェクトを展開しており、野外活動のキャンプに関しても特に環境に配慮している。例えば「直火をしない」「化学洗剤を使わない」「洗いをしない」「樹木の保護」をしながらのエコキャンプを実践している。



ロープを張るときの木の養生

詳しくは

<http://www.geocities.co.jp/Outdoors/4078/>

## 割り箸のゆくえ

### （社）秋田青年会議所の取り組み

<http://www.akitajc.jp/>

“ For The Next Semicentennial ” ~元気あるあきた創造のために志民と共に歩みだそう~のスローガンのもとに、（社）秋田青年会議所（秋田JC）ではさまざまな取組を進めているが、環境問題に関する活動にも力を入れている。

読者はご存知かもしれませんが、使い終わった割り箸3膳をリサイクルするとコピー用紙が1枚できるという。地域の身近な課題解決につながる事業の企画・試行ということで、同団体の新社会システム創造委員会（小畑宏介委員長）が、この割り箸リサイクルに取り組んだ。

企業、学校、飲食店、町内会などから参加を募り、期間設定をして使用済み割り箸を回収し、製紙会社に郵送という手順で行われた結果、回収割り箸150kg、本数で5万8千本がボックスティッシュ150箱に生まれ変わった。

食品トレイや牛乳パックのリサイクルシステムは既に確立しているが、割

り箸に関してはまだほとんど手がついていないのが現状である。実際に参加した方々の意見を聞くと水分が染み込むので匂が残る、汚れが落ちにくい、またゴミが減った、ゴミ袋に穴が開かなくなった等々、やってみなければわからないことが多々あったという。

このシステムを継続的なものにするためには、まだまだ改善すべきところがあり、担当者の労力的にも大変ではあるが、なにはともあれ、参加者の「やってよかった」という声が多く、地



回収した割り箸と秋田JCの皆さん

球規模では森林の減少防止のためにも大切な試みだったと思う。

また、秋田県内の製紙会社は受け入れ態勢が一部でしか整っておらず、それも残念な点である。



サケ稚魚放流 in 旭川

また、ことして23回目になる旭川のサケ稚魚の放流事業もこの春に行われ、子供たちと一緒に8万尾を放流した。同団体が始めた秋田市クリーンアップ作戦と連動した事業であるが、未来を託す子供たちには何よりの生きた体験となっている。

## 環境美化教育優良校として表彰

横手市立金沢中学校 リサイクル活動部門 最優秀校 文部科学大臣奨励賞  
 六郷町立六郷東根小学校 散乱防止活動部門 優良校 協会会長賞

全国の小・中学校を対象とする「環境美化教育優良校」の表彰で、今年度、秋田県の2校が表彰を受けた。

環境美化教育に独創的で熱心に取り組む、「公共の場所の美化」または「飲料空き容器のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく貢献している小・中学校及び小・中学生の団体を対象としたもので、(社)食品容器環境美化協会の主催で、今年度は第4回となる。

金沢中学校では、生徒会を中心に教師・保護者・地域住民と一緒に昭和63年から「廃品回収」を行ってきた。今年度からは、生徒数減少などの理由から活動の見直しを図り「再生資源回収」として年1回行っている。この活動による益金は福祉団体へのプレゼント資金の一部にしている。また通年の活動としてプルタブ・缶の回収、そして作業所が出荷するウェス用の古布回収も行っている。環境のみならずボランティア精神の高揚にもなっており、地域と密着した活動として定着している。

六郷東根小学校では、道路沿いのゴミ拾いと花植えの二本立てで「ゴミが捨てられないようにきれいにする」という地域美化活動に取り組んできた。

児童数が減少する中、PTAや地域、そして老人クラブの方々の協力を得て、足かけ6年間、登校時間を早めるなどして活動を継続してきた。その結果、



六郷東根小 清掃活動

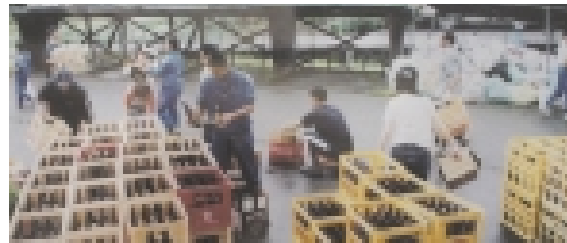
ポイ捨てゴミは激減しており、地域の人々から子供たちへ温かいねぎらいの言葉がかけられている。



六郷東根小 地域の皆さんと花植え



金沢中  
カーブミラー清掃中



金沢中 再生資源回収活動

金沢中学校  
<http://www.akita-c.ed.jp/sch11365/>  
 六郷東根小学校  
<http://www.obako.or.jp/610est01/>  
 (社)食品容器環境美化協会  
[http://www.kankyobika.or.jp/school/school\\_1.html](http://www.kankyobika.or.jp/school/school_1.html)

## 継続は力なり！創立30周年の能代市消費者の会

1973年(昭和48年)に発足した能代市消費者の会は、今年で30周年を迎えた。

きっかけは大豆製品の高騰であったというが、この年は石油製品価格の急騰などで、トイレトーパー騒動に象徴される物不足になった年である。こういった中、消費生活の知識の普及や価格の適正化と市民生活の向上を目的に創立され、現在まで「食の安全・安心・本物」「地産地消」そして環境問題に対していろいろ取組を続けてきた。

現在の会長の塚本恵美子さんは、「循環型社会のリデュース・リユース・リサイクルの3Rもだいが浸透してまいりました。買い物ひとつ取り上げても

健康と環境にやさしいものを選ぶグリーンコンシューマーを目指しております。消費者保護法の公布から35年になり、今後は権利を主張するだけではなく、消費者一人一人の自己責任が強く



能代市自治体へアクリルたわし  
2,000個を贈る

求められます。21世紀型の自立へ方向づけたいものです。」と話す。

235名の会員の皆さんが楽しみながら身近な運動に取り組んでいて、「継続は力なり」を実感した。

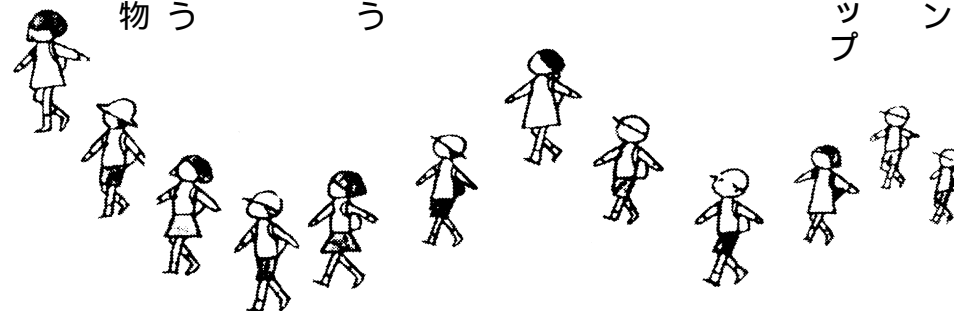


買い物袋持参運動

## 能代市消費者会作成 「環境キャッチコピーあいうえお」

ね め に な と て つ ち た そ せ す し さ こ け く き か お え う い あ

雨水貯めて草花元気で  
 今一度水きりしつかり習慣化  
 生まれくる我が子に食育スタートイン  
 エアコンを一度上げ下げ省エネ対策  
 温暖化防ぎ切り札アイドリングストップ  
 過剰包装断り友に贈り物  
 きまりを守るゴミ収集  
 工夫と知恵で不用品新たに变身  
 健康は環境問題大事です  
 こどもに残そう豊かな自然  
 さあ今朝はいつもの資源回収日  
 自転車ペダル軽やかマイバック  
 すぐ出来るこまめに消灯省エネ一歩  
 洗濯はまとめ洗いで節水を  
 粗大ゴミルールに添って出しましょう  
 ダイエットゴミにも通じるこの言葉  
 地産地産家族団らん安心生活  
 作り過ぎ食べ残しのない適量を  
 出来るだけグリーン購入ひろげよう  
 トレイ入り食品でできるだけさげお買物  
 生ゴミはコンポストで野菜づくり  
 入浴後お湯は洗濯ふき掃除  
 糠床で野菜の切り端食卓へ  
 寝る前に待機電気を消しましょう



ん わ ろ れ り ら よ ゆ や も め む み ま ほ へ ふ ひ は の

この環境キャッチコピーは  
 会員に募集して作ったものです。

農業も循環型で安全安心  
 針金ハンガーの再利用でS字フック  
 一人ひとりの心がけ意識を高め実行に  
 風呂敷は包んで結んでエコバック  
 ペットボトルや空き瓶は洗って出そうリサイクル  
 ホタルの住める水と緑の里づくり  
 待つてくください断る勇氣レジ袋  
 緑の森をみんなで守る植樹の力  
 無駄を省いてつめ替え商品  
 面倒がらずにしつかり分別  
 もうやめようつけっ放しのテレビ族  
 やめましょう！不法投棄をゆるさない  
 ゆとりで選び再生品  
 よく見よう再生紙のエコマーク  
 ラップ減らして蓋利用  
 リサイクルで環境にやさしいまちづくり  
 留守番で夫はゴミの分別協力  
 冷蔵庫上手に使うて快適生活  
 論より証拠アクリルタワシで洗剤いらず  
 割り箸使わずマイ箸持参  
 おしまいはみんな現実3R作戦



# NPO法人化へGO!

環境あきた県民フォーラムの第3回幹事会が10月31日(金)に開催された。

環境あきた県民フォーラムは、より豊かな秋田の環境を次世代に引き継ぐために、情報発信や環境イベント開催などを通じたより幅広い県民運動を目指してネットワーク化を進めるなどの活動に取り組んできた。

こうした活動をさらに充実したものとするために、地球温暖化防止対策推進法に基づく、地球温暖化防止活動推進センター(都道府県センター)としての県指定を目指す必要性についての検討が行われた。同時に、県センター指定の前提となる「NPO法人化」についての検討も行われた。

まだまだ未熟なフォーラムの活動の現況を踏まえながら、幹事の方々や県の環境あきたアクションチーム、環境政策課、秋田市環境企画課が話し合い、今後の行政との関わり合い、あるいは事業運営、会員への意思確認の必要性等の意見が出た。

幹事会での決定事項は以下のとおりである

NPO法人化を目指す

法人化後は、県からの地球温暖化防止活動推進センター指定を目指す

NPO法人化に際しての「会員」「会費」については次のとおりとし、全会員に法人化後の参加形態について意向確認を行う

【会員】「社員」と「会員」の2区分とする

- ・社員 総会における議決権を有し、フォーラムの運営や活動推進の中心的な役割を担う
- ・会員 フォーラムの運営や活動に参加する

【会費】企業、業界団体等の会費については現行どおりとする

個人、市民団体については、現行1千円(1口)年1口以上を

- ・社員 3千円(1千円/1口×3口)以上
- ・会員 1千円(1千円/1口)以上とする

また、このほかに県が来年度事業として検討している「環境あきた県民大学構想(仮称)」について環境政策課より説明があった。いろいろな分野の環境活動に対して、学びたい人、指導できる人など、県民が相互に学びあえる場を提供して、そこで知識を身に付けた人たちが、またいろいろな場で指導役を担うといった構想で、幹事の方々からも実現に期待するという感想があった。

フォーラムも、この事業に関して何らかの役割を果たすことができるものと考えているが、この後、県の構想が固まり次第、会員の皆さんにお知らせする。



地球温暖化防止活動推進センターとは

「地球温暖化対策の推進に関する法律」によって定められたセンターで、各都道府県知事によって指定されます。

主な業務は、地球温暖化防止に関する「啓発・広報活動」「活動支援」「照会・相談活動」「調査・研究活動」「情報提供活動」などです。

# 環境へ配慮する事業所を認定

秋田県内で、環境に配慮した取組をしていこうという意欲のある事業所(会社・工場・学校・役場・個人事業所など)を対象に認定制度を立ち上げるということで、環境あきた県民フォーラムの企画部会で検討してきたが、この11月20日(木)に第2回の企画部会が開催された。

中小企業を中心に環境配慮へ取り組んでもらおうということで、ISOや他県、あるいは環境省のエコアクション21などを参考に、ISOでは経費的、時間的に敷居が高いという中小企業にも比較的手軽に取り組んでもらえるよう、また、秋田県らしさを加味した制度とするためにはどのような仕組みにしたらいかなどについて、さまざまな意見が出た。

個々の取組は小さくても積み重なれば地球規模の環境配慮につながることから、多くの事業所に参加していただきたいと思っている。

まだ、部会での検討段階だが、概略をお知らせする。

名称は「あきた環境優良事業所認定制度」とする

少し表現が硬いかもしれないが、一目で内容がわかるものとした

認定区分は「ステップ1」と「ステップ2」とする

・ステップ1「環境問題を考え、取組を進める段階」

認定要件 環境に配慮した取組を3項目以上

申請料金 フォーラム会員は無料、その他は5,000円

更新料金 検討中

認定手順 申請書の書類審査で認定

・ステップ2「環境問題に積極的に取り組み、

ISO14001を目指す段階」

認定要件 ISO審査員補の小西和博委員を中心に検討中

申請料金 5万円~10万円

更新料金 認定申請時の75%程度を目安に検討中

認定手順 申請 審査 認定(要コンサルティング)

認定審査会委員の任期は2年とし、委員数は検討中

認定証、認定銘板を交付する

認定期間は3年とする



認定証のイメージ

以上が、第2回までの概略の報告となっており、会員の皆様のご意見等をぜひフォーラム事務局までお知らせください。